

保護者のみなさまへ

令和3年11月4日
河内長野市立千代田小学校
校長 佐渡 芳宏

令和3年度「全国学力・学習状況調査」「すくすくウォッチ」の結果
について

秋晴れの心地よい季節となりましたが保護者の皆さまにおかれましてはご健勝のことと存じます。平素は本校の教育活動にご支援ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。

さて、今年5月27日（木）に6年生を対象に「全国学力・学習状況調査」と「すくすくウォッチ」を、5年生を対象に「すくすくウォッチ」を実施しました。本調査は、児童の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証することで、児童における教育指導の充実や学習状況の改善に役立てることを目的としています。調査の結果より、子どもたちがそれぞれの学習の到達状況を知り、今後の学習の改善につなげてほしいと考えています。また、学校でも児童一人ひとりの学力を向上させるための教育活動を見直し、課題改善のための取り組みを進めていきます。

6年生 学力・学習状況調査の概要

＜国語＞

概要 平均正答率は、府・全国と比較して、下回っていた。選択式問題での正答率は府・全国と比べても差はないが、記述で伝える問題の無回答率が高かった。

特に成果が見られた問題例 ①や②一、二のような選択式の問題では正答率が高かった。②一の問題は、文章全体の構成や展開を考える問題で、内容の中心となる事柄を把握することができていた。②二では、思考に関する語句の使い方を理解していた。

特に課題が見られた問題例 ②三は、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見つける問題、②四は中心となる語や文を見つけて要約する問題である。どちらも記述式で「考えて」「書く」必要がある。じっくり考えて、試行錯誤して正しい答えを導き出す問題（思考力、判断力、表現力）に課題がある。

＜算数＞

概要 平均正答率は、府・全国と比較して、下回っていた。記述式問題での府・全国との比較では国語のそれと比べると差は少なかったが、情報量の多い問題になると正答率が下がっている。

特に成果が見られた問題例 ①(1)(2)の道のりと時間に関する問題は府・全国と比較して正答率は高かった。無回答もなく、理解度が高かった。
③(1)(2)ではグラフの問題で、理科や社会での学習が定着につながった。
特に課題が見られた問題例 ②は図形の問題で、正答率が低かった。図形の学習の意味理解ができていない。②(3)、③(4)、④(3)は記述式の問題である。自分の考えを言葉や式を使って説明すること、書くことに苦手意識がある。またこれらの問題の無回答率が高かった。

＜すくすくウォッチ（教科横断的な問題わくわく問題）＞

概要 自分の考えを伝えようとする意欲が高い。しかし、物事を順序良く、論理的に考えたり、二つ以上の事柄を関連付けて考えたりする力に課題がある。

特に成果が見られた問題例 興味関心のある事柄について意欲的に工夫して相手に伝えようとする観点で、自由度の高い記述問題で無回答率が少なく、府と比較して正答率も高かった。図や表、グラフ、短い文章、会話文などの内容理解で、自身で考えたことを伝えることができた。

特に課題が見られた問題例 複数の資料があると関連付けて考えることができない。段階的に考えなければならない問題では、前半の読み取りだけで解答している傾向がある。根気強く問題が読めていない。論理的に考えていく習慣が身に付いていない。資料から情報を整理して伝える、理由や根拠を明確にして伝える力に課題がある。

5年生 すくすくウォッチの概要

＜国語＞

概要 全体平均正答率は、本校81.1%、府81.6%と大差はなかった。思考・判断・表現についての正答率が本校76.6%、府75.4%と上回っていた。

特に成果が見られた問題例 文の構造や文法をと問う問題については正答率が高かった。情報の扱い方に関する事項に関する問題についても正答率が高かった。

特に課題が見られた問題例 ことわざや言葉の意味を問う問題、自分で書く問題では無回答率が高かった。長い文章での問題の回答率が低かった。テスト後半の問題の無回答が多かった。

＜算数＞

概要 全体平均正答率、本校46.8%、府48.5%と少し下回った。思考・判断・表現についての正答率が本校32.6%、府32.0%と上回っていた。
特に成果が見られた問題例 グラフを正しく読み取る問題で正答率が高かった。図形データの読み取りの問題についても正答率が高かった。
特に課題が見られた問題例 順序立てて論理的に考え、考え方を説明する問題で、正答率が低かった。分数の意味理解に関する問題の正答率が低かった。

＜理科＞

概要 全体平均正答率は本校44.3%、府49.2%と下回った。知識・技能、思考・判断・表現ともに府と比較して下回った。
特に成果が見られた問題例 金属が電気を通すことを問う問題で正答率が高かった。記述問題での無回答率は府と比較して下回っていた。
特に課題が見られた問題例 様々な情報から回答を導き出し、その理由を書く問題で正答率が低かった。電気のつき方でいくつかの可能性について考える問題で正答率が低かった。

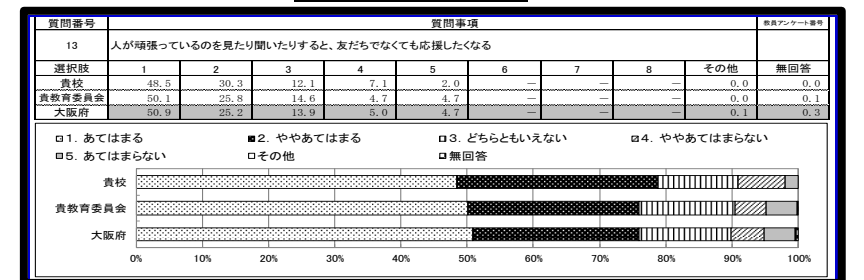
＜すくすくウォッチ（教科横断的な問題わくわく問題）＞

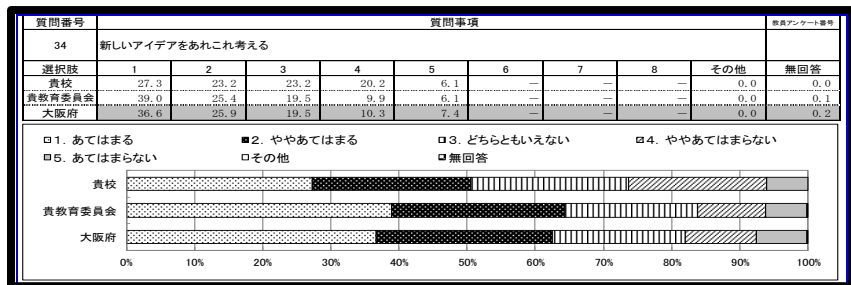
概要 全体平均正答率は、本校49.3%、府55.1%で下回った。観点別にみるとDの項目で府と比較して正答率が上回っていた。Cの項目で府と比較して正答率が大きく下回っていた。

特に成果が見られた問題例 順序立てて論理的に考え結論を導き出す問題で正答率が高かった。また二人の会話から情報を正確に読み取る問題での正答率が府との比較で差が少なかった。

特に課題が見られた問題例 理由や根拠を明確にして答える問題の正答率が低かった。いくつかの情報を関連付けて、課題や事柄を考えるような問題で正答率が低かった。なかった。

6年生 アンケート





「今までやったことのない課題にもよろこんで取り組める」「わくわく問題正答率」とのクロス集計

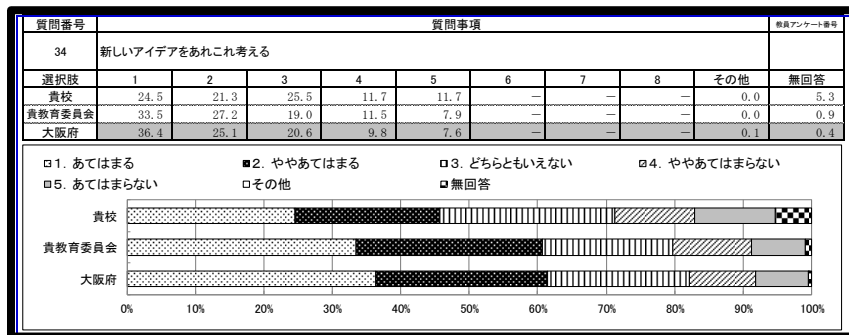
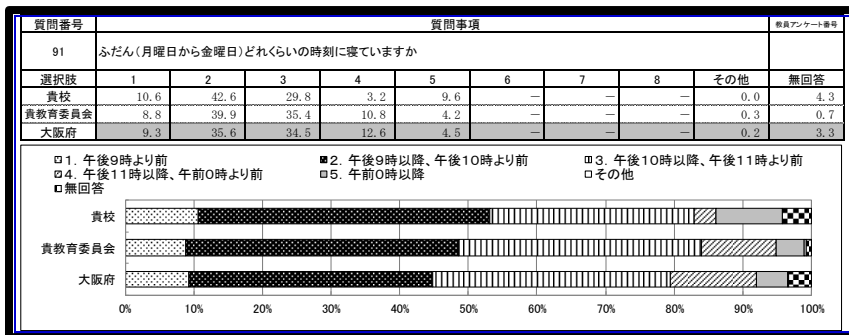
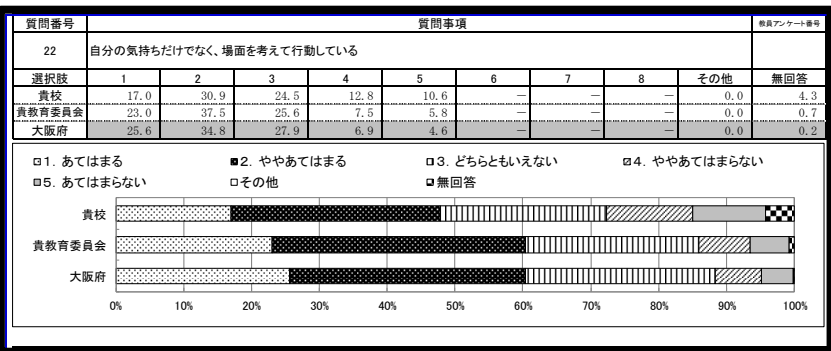
選択肢	わくわく	
	平均正答率(%)	
1	あてはまる	63.9
2	ややあてはまる	65.8
3	どちらともいえない	63.3
4	ややあてはまらない	53.8
5	あてはまらない	48.4
	全体	59.5

概要 友達と協力したり、気づかたり、がんばりを応援したりと、他者と関わることに意義を感じている児童が多い。新しい事柄に興味をもったり挑戦したりする気持ちは比較的少なく、自分をさらに高めたいこうという意識は低い。

特に成果が見られたアンケート項目例 友達についての項目は肯定的な意見が多い。これは他者との関わりに意義を感じているということである。友達のことを自分の事としてとらえ、心配したり応援できたりするところに良さがある。

特に課題が見られたアンケート項目例 課題としては「新しいことを考えること」があげられる。右のクロス集計の結果からもわかるように、「意欲的」に様々な事柄に対して考えたり、取り組んだりしている児童の方が正答率が高くなっている。日ごろから考える習慣を身につけていく必要がある。

5年生 アンケート



「自分の考えをノート等書いている」と「各教科の正答率」とのクロス集計

選択肢	国語	算数	理科	
	平均正答率(%)	平均正答率(%)	平均正答率(%)	
1	あてはまる	82.4	41.1	45.8
2	どちらかといえば、あてはまる	85.2	57.1	49.0
3	どちらかといえば、あてはまらない	75.0	47.1	35.9
4	あてはまらない	77.7	46.8	40.9

概要 どの項目でも肯定的な意見をもっている児童が少ない。友達との関わりについて、学習についても自信がないような答えになっている。また「自分の考えをノート等書いている」の項目に肯定的意見をもっている児童の正答率は比較的高くなっており、考えを書くことが学力向上につながっている。「考える」習慣をつけて「思考力・判断力・表現力」をつけていかなければならない。

特に成果が見られたアンケート項目例 就寝時刻については50%を超える児童が「10時までに寝ている」実態であった。高学年になるとどうしても遅くなってしまいがちなので、生活の基本である「早寝、早起き」をこのまま続けてもらいたい。

特に課題が見られたアンケート項目例 「考えて行動する」「人の話を考えながら聞く」「新しいアイデアを考える」項目で府と比較して肯定的意見が下回っている。学習面でも、生活面でも「考える」習慣をつけて、「考える力」をつけていかなければならない。

結果を受けて

＜学校が重点的に取り組んでいくこと＞

国語、算数、理科、どの教科でも「思考・判断・表現」の観点で正答率が低くなっています。令和2年度から学習指導要領が改訂され、「知識・技能」と併せて、この「思考・判断・表現」の力もつけていくことになっています。このための授業改善をますます進めていきます。「考えて書く」場面をできるだけ多くとるような授業改善を行っていきます。「知識・技能」から「思考・判断・表現」の力を育成するための改善です。自分の予想や解き方を書かせ、友達と交流していく、そして学んだことを自分でまとめていきます。自分が考えたことを言語化していくことをできるだけ多く取り入れていきます。友達との交流、話し合い活動も大切にしていきます。他者の考えを聞くことで自分の考えを広げられるような「対話的」な学習に取り組みます。また、宿題でも自分の思いを書くような課題をできるだけ出すようにしていきます。

＜児童のみなさんにしっかり取り組んでほしいこと＞

「考えて書くこと」を意識して授業に取り組んでください。考える力をつけるためには「考える」習慣をつけなくてはなりません。そして考えたことを文章に書いてください。先生に言われなくてもノートに自分や友達の考えをノートに写したり、メモしたりしてください。文を書くときは、できるだけ細かく、そしてたくさん書けるようにしましょう。書く力は「書くこと」によって身につきます。書く習慣を日頃からつけていきましょう。

また、朝から元気よく学校にくるために、夜更かしをせずに早寝・早起きをしてください。元気に登校できたら、元気に学習に取り組むことができます。

＜保護者のみなさまに協力してほしいこと＞

児童の学習にとって大切なことは安定した生活です。「就寝時刻を早くする」のように生活のリズムを整えてあげてください。学校生活の土台づくりは家庭からです。「ほめてもらった」と答えた児童の正答率は高くなっています。

また他者との関わりについての大切さを感じていないお子様も多いので、家庭でたくさん関わってあげてください。その力がより友達と親密になる力になります。

さらに、お子様の考え・意見をたくさん聞いてあげてください。そのことで自分の考えを認識し、さらに考えられる人に育っていくと思います。日ごろから子どもとの対話の時間を持っていただき、子どもの「考え」を聞いてあげてください。考える習慣を身につけてあげてください。